

令和元年度 埼玉県高等学校PTA連合会 高校教育とPTA専門委員会研修会

開催日 令和元年11月15日 13:00~16:30

会場 さいたま市民会館うらわ ホール

主催 埼玉県高等学校PTA連合会

参加者 高橋、鈴木、井田

【講演会】

講師：文部科学省高等教育局大学振興課

専門官 加藤 善一 様

演題：「大学入試者選抜改革の動向について」



1. 英語の資格・検定試験の導入延期について

最初に、11月1日の萩生田文部科学大臣の発表骨子の説明があった。その内容は以下の通り。読む・聞く・話す・書くといった英語4技能評価は、令和6（2024）年度実施の大学入試に向け、今後1年以内を目処に結論を出す。なお、令和2（2020）年度から開始する「大学入学共通テスト」の記述式問題の導入など大学入試改革については、円滑な実施に向け万全を期する。グローバル化が進展する中、英語によるコミュニケーション能力を身に付けることは大変重要であると認識している。

2. 大学入学共通テストについて

これまで高等学校の教育内容と大学のそれがうまく連携できていないという問題意識より、「高大接続改革」が必要であると議論されてきた。記述式問題導入のメリットとして、解答を選択肢の中から選ぶのではなく、より主体的な思考力・判断力の発揮の期待、論理的な思考力・表現力の発揮を期待できる。この試験の導入により、高大連携の質を高めるきっかけが作れると考えている。

3. 各大学が実施する個別選抜改革について

各大学の入学者選抜において、それぞれの卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を踏まえた入学者受入れの方針に基づき、「学力の3要素¹」を多面的・総合的に評価するものへと改善する。現行の入試も以下のような質的な変革をしていきたい。

入試区分	入試内容	変更内容
一般入試	一般選抜	調査書や志願者本人が記載する資料等を積極的に活用。
A0入試	総合型選抜	本人の記載する資料を積極的に活用。
推薦入試	学校推薦型選抜	推薦書に、本人の学習歴や活動歴を踏まえた「学力の3要素」に関する評価を記載すること及び大学が選抜でこれらを活用することを必須化。

¹ 学力の3要素とは、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協議して学ぶ態度」の三つを言う。

【研究協議】

東部支部 埼玉県立蓮田松韻高等学校

「高等教育とPTA ～生徒を支えるPTA活動～」

これまでの5部門5委員会を組織改編し、3部門3委員会とした。年間を通じ、生徒を支えるため、各部各委員会でそれぞれの活動を行っている。前年をそのまま踏襲することで終わらせず、その反省点を踏まえ、実施回数、実施時期を見直して効率的な運営を考えた。「子どもたちが主役になれるよう、陰で支える」をモットーとしている。



西部支部 埼玉県立所沢商業高等学校

「PTA活動における保護者と学校の負担軽減」

入学式直後の役員選出により各クラス5名の役員を選出し、5名はそれぞれ3委員会に所属、任期は3年間である。普段は各委員会それぞれ別々に活動し、役員・常任理事会、理事会、各委員会活動の同時開催日（年間5～6回）に全体で集まる機会がある。生徒が主体的に取り組み、大人は援助・評価していくという活動をめざしている。

南 支部 埼玉県立南稜高等学校

「高校教育とPTA ～コミュニケーション力で生徒の成長を応援～」

入学時に支部ごとに理事を選出し、PTA役員として活動する。役員は、本部、専門部に所属する。役員の任期は、「一年とし、再任を妨げない」となっているが、ほとんどが3年間継続して活動しているのが現状である。年2回、生徒会から上がってきたテーマをもとに、学校・生徒・保護者・地域が、それぞれ意見を出し合い、討論を行っている。コミュニケーションを図りながら、大いに生徒の成長を見守っていきたい。

北部支部 埼玉県立秩父農工科学高等学校

「高校教育とPTA ～絆～」

PTA・後援会本部役員会、広報委員会、研修委員会、補導委員会、進路研修会、保健委員会がある。PTA・後援会・職員が三位一体となり「絆」を合言葉とし、これからも一層、PTA・後援会活動を邁進させていきたい。

所感

目下変革の最中である大学入試制度の改革について、今後の動向に目が離せない。教育の本質的なあり方をきちんと議論した上で、適切な入試制度が生まれることを望みたい。

また、研究協議で発表した4校には様々な特色があり、子どもたちのためにできること、PTA活動の見直し等、一女の今後のPTA活動の参考となるものがあつた。（文責 本部）